おくすりだより

第　7　号
2021年　10月
JR東京総合病院 薬剤部

「ポリファーマシー」って聞いたことありますか？

みなさんは「ポリファーマシー」という言葉をご存知ですか？近頃、テレビや新聞などで取り上げられることも多くなっています。今回は、ポリファーマシーについて簡単に説明します。

「ポリファーマシー」とは？

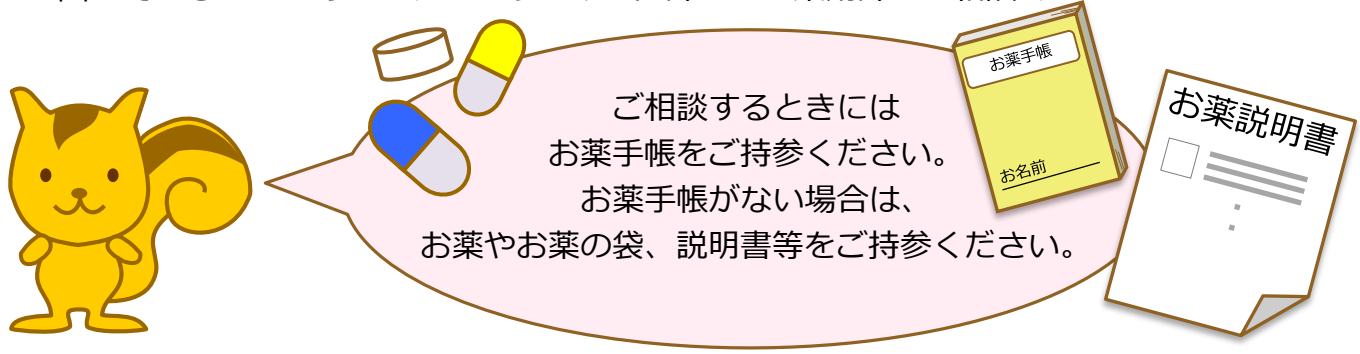
ポリファーマシーは、単にお薬の数が多いだけでなく、それに関連して有害事象(※1)のリスク増加、服用間違い等の問題につながることをいいます。服用しているお薬が何種類以上でポリファーマシーに該当するのかという明確な定義はありません。しかし、お薬の数が6種類を超えるとお薬による有害事象の発生頻度が増加するといわれています(※2)。

ポリファーマシーによるお薬の重複や副作用に注意！

服用するお薬の数が増えると、お薬同士が相互に作用することで、効果が強まったり、弱まったりすることがあります。特に高齢者では、肝臓や腎臓の機能が低下し、お薬の分解や排泄が遅延することで副作用が現れやすくなる恐れがあります。複数の病気を抱えている場合や、受診する医療機関が多数ある場合は、お薬の数が増えて重複する危険性があるため注意が必要です。

ポリファーマシーで困っているときは

「多すぎるお薬は減らすこと」が大事ですが、「お薬を使わなくて良い！」ということではありません。患者さんの病状によって適切なお薬の種類や数は変化します。お薬が多いからといって、不適切とは限りませんので自己中断してはいけません。「お薬が多くて管理が大変、お薬の重複がないか確かめたい、副作用が気になる」など困っていることがあれば、かかりつけの医師または薬剤師にご相談ください。



※1：有害事象：医薬品との因果関係を問わない有害な反応のこと
※2：老年医学会「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015」より